

都市再生整備計画 事後評価シート
モノレール牧志駅周辺地区

平成24年2月

沖縄県那覇市

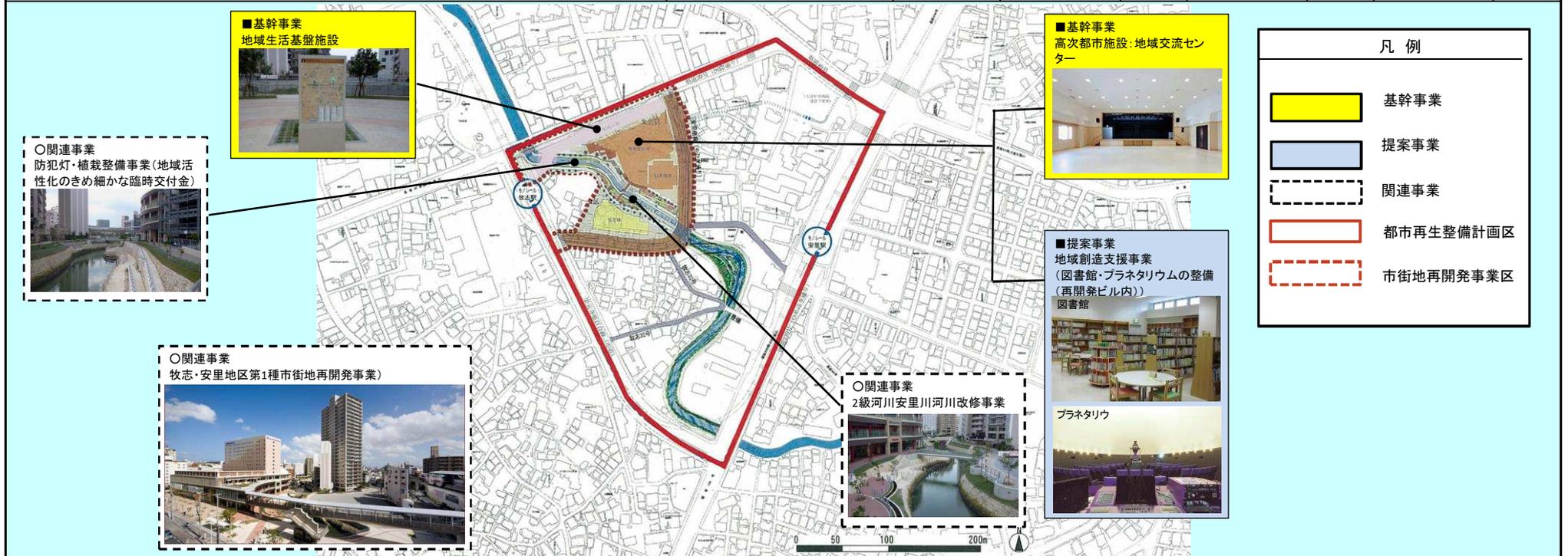
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	沖縄県	市町村名	那覇市	地区名	モノレール牧志駅周辺地区			面積	10.3ha		
交付期間	平成20年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	1,359百万円	国費率	0.316				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設、高次都市施設								
		提案事業	地域創造支援事業、事業活用調査								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	高質空間形成施設：施設緑化施設等（照明、植栽等）	削除/追加の理由	当初、まちづくり交付金の趣旨から、河川区域において高質な空間形成を目的とした照明・植栽等の整備を計画し、都市再生整備計画を策定した。その後、国において「地域活性化・きめ細かな臨時交付金」が設立され、県河川課において整備することが可能となった。				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	別事業により整備は実施されるため、目標及び指標は据え置く。
		基幹事業	-	-	-	-	-	-	-	-	
		提案事業	まちづくり活動推進事業：社会実験（集客イベント等）、啓発活動	公共施設（図書館・公民館）の広報・啓発に資するオープンイベント等の開催を計画していたが、再開発事業施行者（再開発組合）がそれも含め再開発事業全体施設での、まち開きオープンイベントを開催する事となりその必要性が無くなった。	官民共同によるイベントが開催され、施設入館者数等に関連するが、目標及び指標等は据え置く。						
	新たに追加した事業	基幹事業	-	-	-	-	-	-	-	-	
提案事業		-	-	-	-	-	-	-	-		
交付期間の変更	当初	H20～H23	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	-							
変更	-	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	公民館・図書館・プラネタリウムの利用者の増加	人/日	540人/日 平成18年度	800人/日 平成23年度		882人/日	○	あり なし	モノレール駅に直結した再開発ビルに公共施設を整備したことで、利用者の交通の利便性が格段に向上し、観光客の利用もあり効果が得られた。	H24年9月
	指標2	歩行者通行量(休日)	人/日	4,000人/日 平成18年度	10,000人/日 平成23年度		3,193人/日	×	あり なし	オープンして間もなく、効果発現に時間がかかるものの、今後の増加は見込める。また、入館者やベドストリアンデッキ利用者も指標の範囲に入り計測方法の検討が必要。	無し
指標3	駅乗降客数	人/日	5,600人/日 平成18年度	6,600人/日 平成23年度		5,072人/日	△	あり なし	● 牧志駅の対前年比の乗降客数は、他の駅より増加しており、一定の効果はみられる。	H24年9月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	ベドストリアンデッキの歩行者通行量	人/日	無し 無し			1,217人/日			ベドストリアンデッキが新たに整備されたことにより、歩行者のための新たな動線が生まれた。指標2を補充する。	無し
	その他の数値指標2	施設入館者数	人/日	無し 無し			3,158人/日			施設整備により、交流人口の増加と、賑わいにつながった。指標2を補充する。	無し
その他の数値指標3	地区内の滞留者数	人/日	無し 無し			590人/日			駅前広場のオープンスペース等の効果により、交流人口の増加を得られた。指標2を補充する。	無し	
4)定性的な効果発現状況	駅前広場や河川親水空間では、様々なイベントが行われ新たな賑わいを創出しています。そのイベント来客者も公民館・図書館・プラネタリウムを利用するため、来館者数の増加につながった。案内情報板の設置により増加する外国人観光客へのサービス向上につながり、要望の高い外国語表記案内板が利用されている。										
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	無し		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			
	住民参加プロセス	都市再生整備計画の関連事業について、再開発事業の権利者及び周辺住民と意見交換と説明会を行いながら整備を進めた。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 公民館をさらに活用出来るよう講座等の開催を周知し、市民との協働により公民館の魅力を高めるよう検討する。			
持続的なまちづくり体制の構築	無し		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				

様式2-2 地区の概要

モノレール牧志駅周辺地区(沖縄県那覇市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 市民が集うまちづくり 新たな交流づくりに資する「顔」の創出と、中心市街地の再生に向けた都市基盤の整備	公民館・図書館・プラネタリウムの利用者の増加	540人/日 H18	800人/日 H23	882人/日 H23
目標1: 賑わいの場の創出……「牧志・安里地区第一種市街地再開発事業」を核とした市民が集まる賑わいの場の創出。	歩行者通行量(休日)	4,000人/日 H18	10,000人/日 H23	3,193人/日 H23
目標2: 交通結節点機能の補完……交通アクセス・快適性の向上、モノレール駅に隣接した利点を生かした交通結節点としての機能強化。	駅乗降客数	5,600人/日 H18	6,600人/日 H23	5,072人/日 H23
目標3: インフラ課題の解消……交通ネットワークや快適性の向上等に向けた住環境基盤の整備。		単位:	H	H
		単位:	H	H



まちの課題の変化	当地区の交通利便性や、商業施設との併設による公民館の整備により、地域住民の利用が促進され利用者の大幅な増加が達成できた。今後は、整備された公民館・プラネタリウムの更なる活用を図りたい。また、図書館・プラネタリウムの利用者も増加し、目標値の達成に大きく寄与しているが、市民ニーズを把握し、より利用しやすいような環境作りが必要となった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	整備された再開発事業の効果を持続させていくために、再開発事業区域内だけでなく周辺の都市再生整備計画区域への事業効果の波及を促す必要がある。そのためには、モノレール牧志駅だけではなく、安里駅周辺からの導線の確保や、周辺住民へのPR等を行い、賑わいのネットワークを強化して更なる賑わいの創出に取り組む。また、国際通りの東の玄関口として、モノレールの交通利便性を活かして広く来場者の増加する施策を展開する必要がある。駅前広場や河川親水空間の活用を促進するため、行政と商業ビル入居者や周辺商店街組合との連携を図り、更なる賑わいの創出に取り組む。